## 元会長・横山光雄先生のご逝去を悼む

名誉会員・東京大学名誉教授 井手久登



元会長・名誉会員の横山光雄先生(東京大学名誉教授)は平成 22年10月15日に、101歳の天寿を全うされました。

横山先生は明治42年9月25日に横浜でお生まれになり、昭和9年東京帝国大学農学部農学科を卒業され、同大学院を経て、昭和10年都市計画埼玉地方委員会技手補、昭和12年関東州勤務、昭和13年関東州庁土木部計画課技手、昭和14年満州国交通部大東港建設局技佐、昭和19年満州国鞍山市都邑計画科長、昭和22年千葉農業専門学校教授、昭和25年千葉大学園芸学部教授、昭和31年東京大学農学部教授、昭和45年東京大学停年退官後、同年日本大学農獣医学部教授を昭和55年まで勤められました。

この間,昭和44年日本造園学会会長,昭和46年日本都市計画学会会長を務められ,また平成5年には国土計画協会会長に就かれ,公園緑地計画・都市計画・農村計画・広域計画から文化財保護・自然環境保全に至る広範な領域で研究・教育に精励され,卓越した識見と高邁な人格とを以て後進の指導・育成に努められました。

国際的にも、IFLA(国際造園家会議)副会長、ユネスコ専門委員、ICOMOS日本支部副会長を歴任され、斯界の発展に貢献されました。日本都市計画学会をはじめ、日本造園学会、農村計画学会の名誉会員でもありました。

横山先生の研究活動は多岐にわたります。昭和27年の学会機関誌「都市計画」2号に発表された「公園計画基準に関する研究」は児童公園(街区公園),近隣公園等の面積所要量を階層別利用人口と利用施設面積との対応から定量的に示したもので、都市公園法の理論的裏付けとなった研究で、その後の公園緑地整備の進展に大きな影響を与えました。さらに住宅団地、新都市、大都市の緑地計画論へと研究は展開され、これら一連の研究業績に対して昭和43年日本造園学会賞が授与されました。

また農村計画の分野においても若い頃から農村建築研究会を 通して農村調査を進められ、その成果は八郎潟新農村建設計画に 生かされ、農村計画学発展の基礎を築かれました。都市・農村を 含めた広域の緑地計画のあり方についても、早くから生態学的空 間秩序の観点を重要視し、生態学的土地利用計画の必要性を主 張してこられました。 さらに文化財保護の面でも国の旧文化財保護審議会の第三専 門調査部会長(記念物関係)として多くの名勝指定に尽力されて きました。

このような多面的なご活躍は幅広い教養と該博な知識に裏付けられたものでありました。

筆者は横山先生が東京大学に赴任されて3年後の昭和34年に、 夏学期の「造園学」の講義をはじめて受講しました。当時は月曜日の 午前8時から2時間という学生にとって辛い時間帯の講義でした。冬 学期の「造園計画施工」の講義では受講者が少なく、小生一人のこ ともしばしばあり、先生は「文学部の講義ではこういうこともよくあるら しいよ」と言われながら、たった一人の聴講生のための講義をしてい ただいたのを記憶しています。期末試験は教授室で小生一人であ ったのも思い出となります。昭和30年代中頃の造園緑地の専攻生は あまりおらず、また就職先も官庁に大体は行くものとなっていたので、 大学院の修士課程修了は先生にとって小生が最初だということもあ って、大学院・助手時代を通して全国各地の調査研究の仕事には 殆ど連れていってもらえるという幸運を得られました。このことがその 後の研究教育活動にどれほど役に立ったか計りしれません。

先生は常日頃、これからは生態学の研究が重要になると言っておられ、小生に植物生態学を勉強するようにと指導されました。横浜国立大学の宮脇昭先生(現名誉教授)の紹介により西ドイツ連邦植生学・自然保護研究所へ植物社会学の研究に行くことになった際も、文部省の在外研究員としての便宜をはかっていただいたのも先生でした。まさに今日の環境問題における生態学的役割を予見しておられたのでした。小生にとっても土地利用計画・緑地環境計画の基礎を生態学に置くという終生の方向が定まったという点で感謝しております。

千葉大学,東京大学,日本大学での教え子は多数になりますが, 全国において研究教育,行政,実業界で活躍しており,先生の御 遺志はさらに後々まで浸透していくものと思います。そのことを天 から見守っていただきたいと思います。先生のご生前の数々のご 業績・ご指導に衷心より感謝と御礼を申し上げ,ご冥福をお祈り いたします。